

特 253

411

新 法
民 曹
訴 同
實 志
演 會

訴
訟
記
錄

(第
一
部)



0017087000

0017087-000

特 253 - 411

法曹同志会新民訴実演訴訟記録

法曹同志会・著

法曹同志会

第1部

昭和4

ACH

特253
411

序

新民事訴訟法は法文難解にして然も手續は繁雜なり。之が解釋及手續に精通する
ことは多忙なる法曹家に取りては容易の業に非ず。於茲乎。百理も實驗に如かず。
大阪辯護士會員中有志を以て組織せる我法曹同志會は實演を爲し會員自ら研究を
爲しつゝ、識者の批判を請はんするものなり。冀くは新法完成の爲め御援助あらん
ことを。

昭和四年霖雨の空を望みて

法曹團同志會幹事

凡例

- 一、事案ノ研究事項ヲ拔萃シ其争點ト關聯シテ研究ニ便ニシタリ。
- 一、本書ハ訴訟並答辯書及證據方法ノ一部ノミ印刷ニ附シタルモノナリ。
- 一、模擬裁判所當事者ノ意見及秘策ニ依ル準備書面再抗辯並證人ノ巧妙ナル供述等ニ付テハ各當局者ノ技倆手腕ニ俟ツコト多キヲ以テ之ヲ本印刷ヨリ省略セリ。

一、本會ノ實演ハ既ニ三回ニシテ各事案及檢討ノ箇所異ルヲ以テ不日著作ノ體裁ヲ整へ出版スル豫定ナリ

一、實演次第

- 一、日時 昭和四年七月十三日午後一時
- 二、場所 大阪辯護士會館會議室
- 三、役割

第一部 (第一審)

裁判長	中塚正信
受命判事	小野村胤敏
陪席判事	吉田仲治
原告代理人	平井良太郎
同	西家敬治
被告(山田)代理人	榎本良三
被告	片岡缺席

被告(齋藤)代理人 溝 淵 春 治

第 二 審 (控 訴 審)

裁判長判事 中 村 公 男

受命判事 秋 山 治 土

陪席判事 厚 母 繁 一

控訴代理人 押 谷 富 三

同 山 中 治 三 郎

被控訴代理人 青 野 實 雄

參加訴訟代理人 黑 田 喜 藏

人 證

一、原告申請——證人竹内春海(原告ノ雇人)

一、被告申請——被告山田堅吾本人訊問ノ申出(三二九條、三三六條)

一、裁判所職權——(在廷證人)訴訟引受ノ事實審訊ノ爲メ山田善太郎(七四條、二六一條)

一、欠席者申請——證人有山邦夫(一三八條)

本 件 (第一部) ノ 争點 及 研究 事項

六

一、民訴法第五九條ノ共同訴訟ハ如何ナル範圍ニマテ適用アリヤ第二一條トノ關係如何

二、共同訴訟ヲ以テ提起シタル訴ニ於テ被告中ノ一人ニ付移送ヲ求メ得ルヤ、第三〇條三一條ニハ訴訟ノ一部ニ付移送ヲ爲スコトヲ得ル旨ノ規定アリ如何

三、移送ノ申立ヲ爲ス當事者ハ移送スヘキ裁判所ヲ指定シ且之カ相當ナル裁判所ナル旨ノ證明ヲ爲サルヘカラサルヤ、若シ裁判所不相當ナリト認ムルトキハ訴ヲ却下スルコトヲ得ルヤ (三〇條)

四、土地及事物共本來管轄權ナキニ五九條ニ依リ他ノ請求ト併合セルカ故ニ第二一條ニ依リ全部ノ請求カ適法トナリタル案件ニ付テハ被告ハ管轄違ノ抗辯ヲ提出シ得サルヤ (二六條)

五、三一條ノ移送ハ申立又ハ職權ニヨリトアルモ三〇條ニハ此趣旨ノ規定ナシ同條

ハ申立ヲ許サル意力或ハ職權移送トシテ管轄違ノ抗辯ヲ提出スル要ナキカ、然リトセハ被告カ本案ノ辯論ヲ爲シタルトキハ如何

六、原告ハ移送セラル、コトヲ覺悟ノ前ニテ原告ノ便宜上土地管轄權ナキ裁判所ニ訴ヲ提起スルコトヲ得ルヤ

七、當事者ノ一方カ準備手續ニ於テ準備書面ヲ提出シ且其書面中ニ證據方法ヲ記載シ置キナカラ缺席シタルトキハ出頭シタルト同一ノ效力ヲ生スルヤ (一三八條二五六條)

八、當事者ノ一方カ準備手續ニ於テ缺席シ唯準備書面ヲ提出シ證據方法ノ申出ヲナシアリタルトキハ口頭辯論ニ缺席シタルトキト雖モ現ニ出頭セル當事者ト同一ノ取扱ヲ受ケ證據調ヲ爲スコト、ナルヤ (一三八條)

九、證據決定ハ準備手續終了後口頭辯論開始前ナルヤ (二〇四條)

訴 狀

大阪市東區高麗橋五丁目

原告 株式會社大阪銀行

取締役 服部 三太郎

大阪市北區堂島中一丁目

辯護士 平井 良太郎

大阪市東區高麗橋一丁目(帽子商)

被告 山田 堅吾

横濱市中區本牧町(無職未成年者)

被告 片岡 一郎

右法定代理人

後見人 佐々木 順吉

東京市日本橋區蠅殼町八番地(帽子販賣商)

被告 齋藤 齋市

爲替手形金請求訴訟事件

請 求 ノ 趣 旨

一、被告山田堅吉ハ金八百圓也ニ昭和四年五月一日ヨリ被告片岡一郎ハ金九百圓也
 ニ昭和四年六月一日ヨリ被告齋藤齋市ハ金二千圓也ニ大正十五年七月一日ヨリ何
 レモ本判決執行濟ニ至ルマテ年六分ノ損害金ヲ附シテ支拂フヘシ
 訴訟費用ハ被告ノ負擔トス
 トノ御判決並假執行ノ御宣言ヲ求ム

請 求 ノ 原 因

一、原告ハ銀行業ヲ營ム者ナル處被告山田堅吾トノ手形割引契約ニ基キ左記三通ノ
 手形ヲ取得シタリ

(イ) 金額八百圓也振出期日昭和四年一月三十一日支拂期日昭和四年四月三十
 日支拂地大阪市支拂場所山口銀行振出人支拂人引受人山田堅吾

(ロ) 金額一千圓也振出期日昭和四年四月一日支拂期日昭和四年五月三十一日
支拂地大阪市支拂場所野村銀行振出人支拂人引受人未成年者片岡一郎後見
人佐々木順吉

(ハ) 金額二千圓也振出期日大正十五年五月一日支拂期日大正十五年六月三十
一日支拂地東京市支拂場所三井銀行振出人支拂人引受人齋藤齋市

二、右三通ノ手形ハ各支拂期日ニ支拂ヲ求ムル爲メ適法ニ呈示シタルニ不拘被告等
ハ其支拂ヲ爲サ、ルモノナリ、依テ之カ支拂ヲ求ムル爲メ滿期日以後ノ法定利率
ニ依ル損害金ヲ附シ無止及本訴タル次第ナリ

(註) (ハ)ノ手形ハ時効期間滿了ニ際シ東京地方裁判所ニ提出スル餘裕ナカリシ爲メ移送決定ヲ受ク
ル爲メ大阪模範地方裁判所ニ起訴シタルモノナリ

攻 撃 方 法

甲 第一號證 爲 替 手 形

立 證 被告山田ニ對スル債權ノ存在ヲ證ス

甲 第二號證 同 上

立 證 被告片岡ニ對スル債權ノ存在ヲ證ス

甲 第三號證 同 上

立 證 被告齋藤ニ對スル債權ノ存在ヲ證ス

昭和四年六月三十日

原告代理人 辯護士 平 井 良 太 郎
同 西 家 敬 治

大阪模範地方裁判所 御 中

甲一號證

受引	昭和四年一月三十一日
山田堅吾殿	山田堅吾殿
山田堅吾	山田堅吾
支拂期日	昭和四年四月三十日
支拂地	大阪市
支拂場所	山口銀行
右金額株式會社大阪銀行殿又、其指圖人、此手形引換	御支拂相成度候也
住所	大阪市東區高麗橋一丁目
昭和四年一月三十一日	山田堅吾
山田堅吾	山田堅吾
山田堅吾	山田堅吾
昭和四年一月三十一日	山田堅吾

一金八百圓也

印紙 爲替手形

第

號

付箋記事 本手形支拂期日ニ呈示ヲ受ケタルモ左ノ理由ニヨリ支拂難致候
 一、理由 取引解約濟
 株式會社山口銀行 營業部長 河口捨次郎 謹啟

甲一號證

受引	昭和四年四月一日
片岡一郎殿	片岡一郎殿
片岡一	片岡一
支拂期日	昭和四年五月三十一日
支拂地	大阪市
支拂場所	野村銀行
右金額株式會社大阪銀行殿又、其指圖人、此手形引換	御支拂相成度候也
住所	横濱市中央区本牧町
昭和四年四月一日	片岡一
片岡一	片岡一
片岡一	片岡一
昭和四年四月一日	片岡一

一金壹千圓也

印紙 爲替手形

第

號

付箋記事 本手形支拂期日ニ呈示ヲ受ケタルモ左ノ理由ニヨリ支拂難致候
 一、理由 取引解約濟
 株式會社野村銀行 營業部長 江芳 謹啟

甲三號證

受引	昭和 年 月 日	齋藤齋市殿	齋藤齋市印
<p>付屬記事 本手形支拂期日ニ表示ヲ受クタルモ左ノ理由ニヨリ支拂難致候 一、理由 取引解約 濟</p> <p>株式会社三井銀行 營業部長 佐治熊大郎印</p>			
<p>印紙</p> <p>第 號</p> <p>爲替手形</p> <p>支拂期日 大正十五年六月三十一日</p> <p>支拂地 東京市</p> <p>支拂場所 三井銀行</p> <p>右金額株式會社大阪銀行殿又、其指圖人、此手形引換 ニ御支拂相成度候也</p> <p>住所 東京市日本橋區編笠町八番地</p> <p>大正十五年五月一日 齋藤齋市印</p>			

昭和四年(ワ)第二五〇〇號

答 辯 書 (山田提出)

原告 株式會社大阪銀行
被告 山 田 堅 吾

右當事者間爲替手形金請求事件ニ付答辯書ヲ提出スルコト左ノ如シ

答 辯 ノ 趣 旨
形 式 上 ノ 答 辯

原告ノ訴ヲ却下ス

訴訟費用ハ原告ノ負擔トス

トノ御判決ヲ求ム

理 由

本件ノ事物管轄ハ區裁判所ノ管轄ニシテ地方裁判所ノ管轄ニ屬セス管轄違ノ抗辯

ヲ提出ス

實質上ノ答辯

原告ノ請求ヲ棄却ス

訴訟費用ハ原告ノ負擔トス

トノ御判決ヲ求ム

理由

- 一、被告ハ本件手形ヲ振出引受シタルコトナシ甲第一號證ヲ否認ス
- 二、本件手形ハ訴外尼崎市西本町山田善太郎ニ於テ商取引ノ關係上後日被告ノ追認ヲ得ルコトヲ豫想シ同人カ作成發行シタモノニシテ原告モ其情ヲ知レルモノナリ假リニ被告ニ支拂義務アリトスルモ同訴外人ニ於テ本件訴訟ヲ引受ケタルヲ以テ被告ハ其責ヲ有セス、故ニ同訴外人ヲシテ本件訴訟ヲ引受セシメラレ度民訴法第七十四條ニ依リ申立ヲ爲ス次第ナリ
- 三、假リニ被告ニ責任アリトスルモ被告ハ原告ニ對シ賣掛代金債權五百圓也ヲ有スルヲ以テ其對當額ニ於テ相殺シタル抗辯ヲ提出ス

防禦方法

大阪市東區高麗橋一丁目

被告本人

山田堅吾

立證

本件手形ハ訴訟引受人タル山田善太郎カ作成シタルモノナルコト及被告本人ニ手記セシメ甲第一號證手形ト對照セラレ度尙善太郎ニ於テ訴訟引受ヲ爲シタル事實ヲ訊問セラレタシ

昭和四年七月五日

被告代理人 辯護士 溝淵春治

大阪模擬地方裁判所 御中

答辯書

原告 株式會社大阪銀行

被告 片岡一郎

右法定代理人 後見人 佐々木順吉

右當事者間爲替手形金請求事件ニ付答辯スルコト左ノ如シ

答辯ノ趣旨

形式上答辯

原告ノ訴ヲ却下ス

訴訟費用ハ原告ノ負擔トス

三トノ御判決ヲ求ム

理由

一、本件ノ土地管轄ハ横濱區裁判所ニシテ當地方裁判所ニ非ス被告ハ當地方裁判所管内ニ裁判籍ヲ有セサルモノナリ

二、本件ヲ共同訴訟トシテ起訴セラレタルハ民法第五十九條ノ要件ノ何レニモ該當セサルヲ以テ不適法ナリ

實質上ノ答辯

一、被告ハ本件手形ヲ振出且引受シタル事實ヲ否認ス

二、假リニ前項ノ理由ナシトスルモ親族會ノ同意ヲ得サル振出引受ナルニ因リ民法第八八七條、九三六條ノ規定ニ依リ本答辯書ヲ以テ之ヲ取消ス(三二六條)

防禦方法

乙 第一號 證 戶 籍 謄 本

被告片岡カ未成年者ナルコトヲ證ス

證人ノ申出

横濱市山下町

證人 有山 邦夫

右ハ親族會員ノ一人ニシテ本件手形振出引受ニ付親族會ハ同意シタル事實ナキコトヲ證ス

同證人ハ遠隔ノ地ニ付所轄廳ニ囑託シテ御訊問相成度候

乙第一號證

籍本

横濱市中區本牧町五番地

						主		戸		主戸前	
出生	片岡一郎	母	父	前主トノ續柄	族稱						
大正元年八月一日											

答 辯 書

原告 株式會社大阪銀行
被告 齋 藤 齋 市

右當事者間爲替手形金請求事件ニ付答辯スルコト左ノ如シ

答 辯 ノ 趣 旨

形 式 上 ノ 答 辯

原告ノ訴ヲ却下ス

訴訟費用ハ原告ノ負擔トス

トノ御判決ヲ求ム

理 由

一、本件ハ管轄權ナキ裁判所ニ提起サレタル訴ナルカ故ニ不適法ナリ被告ハ東京市

ニ住所ヲ有シ當地方裁判所ニ裁判籍無シ

二、本訴ハ民法第五十九條ノ要件ヲ具備セサルカ故ニ共同訴訟トシテ不適法ナリ

三、本件ハ手形時効ノ期間滿了日ニ於テ管轄權ヲ有スル裁判所ニ訴ヲ提起スルノ違
ナキ爲メ原告ハ移送決定ヲ求メ得ル民法第三十條ヲ利用シテ提起シタルモノナ
リ然レトモ該法條ハ如斯精神ニ非ス管轄ノ相違シタルトキニ止ムヲ得サル場合ノ
救濟方法トシテ立法セラレタルモノト認ムルカ故ニ本訴ノ如キハ違法ナリ本訴ノ
如キ脫法行爲ハ訴訟法上認容スル所ニ非ス

實 質 上 ノ 答 辯

原告ノ請求ヲ棄却ス

訴訟費用ハ原告ノ負擔トス

トノ御判決ヲ求ム

理由

一、被告ハ本件手形ヲ振出引受シタルコトハ認ムルモ本件手形ノ滿期日ノ直前ニ於テ原告ハ不法ナル假差押ヲ爲シ被告ハ營業上莫大ナル損害ヲ被リタリ乃チ被告ハ資産百萬圓以上ヲ有シ社會上ノ地位及財産ヲ有シ何等原告ニ於テ假差押ヲ爲サルヘカラスル必要ナシ然ルニ虛構ノ事實ヲ申述シ裁判所ヲ僞岡シ假差押決定ノ下附テ受ケタルモノナルカ故ニ原告ハ故意又ハ過失アルモノト謂ハサルヘカラス因テ原告ノ不法行爲ニ因リ被告ノ被リタル損害ハ五千圓ヲ相當ト認ム故ニ其對當額ニ於テ相殺スルモノナリ

防禦方法

丙 第一號 證 假差押申請書

立證

原告ハ虛構ナル事實ヲ申述シ假差押決定ノ下附テ受ケタル事實ヲ證ス

丙 第二號 證 三菱銀行預金證書

立證

預金五十萬圓アル事實ヲ證ス

昭和四年七月六日

原告代理人 辯護士 榎 本 良 三

大阪模範地方裁判所 御 中

324
94

昭和四年七月八日印刷
昭和四年七月十二日發行

大阪市北區絹笠町五番地(岩田豊行方)

法曹同志會

著
作
者

右代表者
岩田 豊 行

印
刷
所

大阪市西區南堀江下通二丁目十一番地
家 木 印 刷 所

印
刷
者

大阪市西區南堀江下通二丁目十一番地
家 木 彌 市

